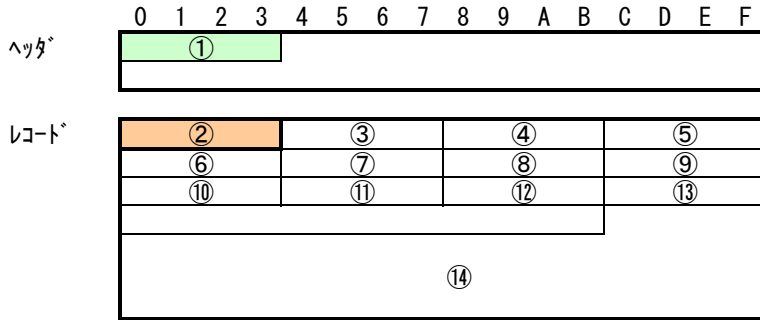


SocketDebugger
 ログファイルデータフォーマット
 (数値は全てリトルエンディアン)



全体構成

ヘッダ
レコード 1
レコード 2
レコード 3

レコードは、データ件数分追加されている。
 EOF検出で終了

No	内容	型
1	ログファイルバージョン	DWORD
2	レコードサイズ(3~14までの合計バイト数)	DWORD
3	受信番号(Viewで表示される番号)	int
4	スレッド番号(ポート1、2の区別)	int
5	メッセージ種別 0:文字 1:受信 2:送信	int
6	接続サブポート(サーバ接続時のコネクションポート管理番号)	int
7	メッセージ番号(対応するメッセージはSocketDebuggerで保持)	int
8	エラー番号	int
9	拡張DLL情報(WPARAM)	DWORD
10	拡張DLL情報(LPARAM)	DWORD
11	UDP専用 IPアドレス情報 (受信時の送信元)	DWORD
12	UDP専用 ポート番号情報 (上記と同様)	DWORD
13	履歴時刻(構造体:SYSTEMTIME)	SYSTEMTIME
14	データエリア(可変長) メッセージ種別により、内容が異なる。 0:メッセージ メッセージの場合、対応文字列を本体が保持しているため、本領域が無い場合がある。 その判定は、レコードサイズが13までの領域サイズであった場合、本エリアは無いものと判断できる。 1:受信データ 受信データが格納される。 2:送信データ 送信したデータが格納される。	指定なし